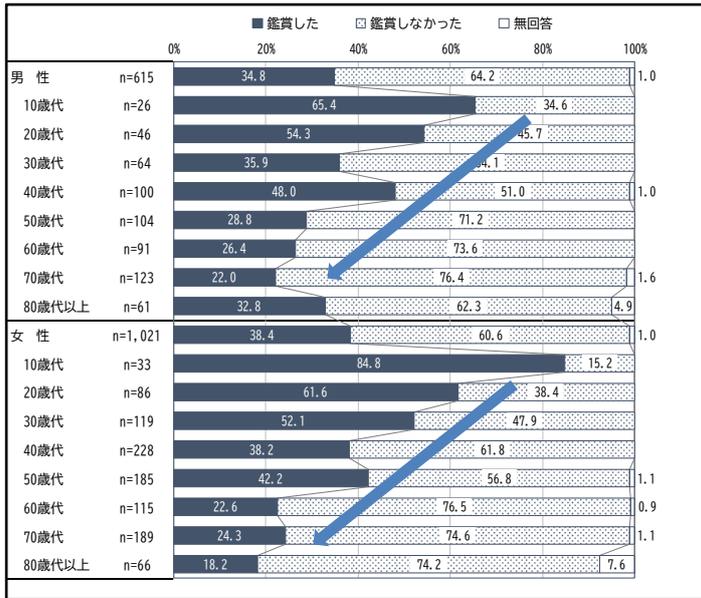


文化振興に関する市民アンケート調査結果から見る 現状と課題・今後の方向性

Ⅰ 施策Ⅰ「幅広い鑑賞機会・文化活動機会の提供」に関わる事項

(1) 文化芸術の鑑賞について

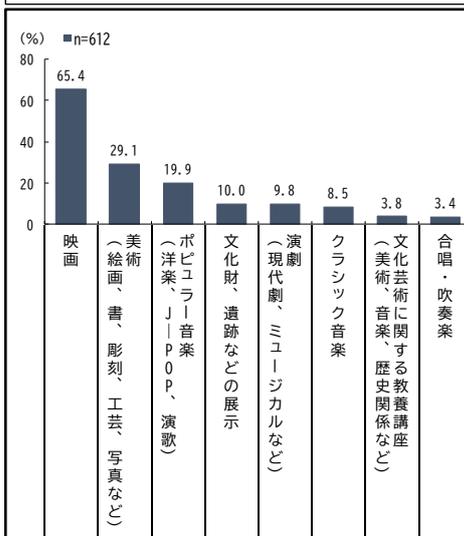
図表 6 鑑賞の状況（オンラインは含まない）＜性別・年代別＞



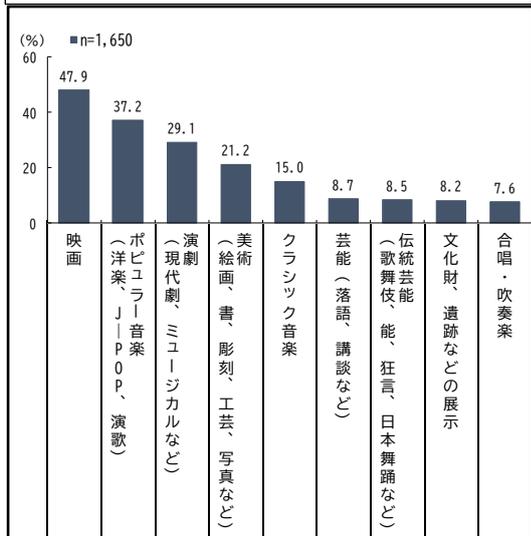
【現状】

アンケート調査の結果からは、全体で37%の人が鑑賞しており、10歳代が最も高く、年代が上がるにつれて鑑賞した人が少なくなっていることが分かる。

図表 8 鑑賞したもの（オンラインは含まない）（抜粋）



図表 27 鑑賞したいもの（オンラインは含まない）（抜粋）



鑑賞したものは、映画が最も多く、その他、美術やポピュラー音楽、文化財や遺跡などの展示を挙げた人が多かった。また、鑑賞したいものとしては、演劇やクラシック音楽を挙げる人も多かった。

図表 64 市が力を入れていくべき取組

	有効回答数 (件)																	
1 番重要	1,650	15.8	13.0	16.9	10.5	10.1	3.8	3.5	4.1	3.0	4.2	1.6	1.0	12.5				
2 番目に重要	1,650	12.4	12.2	7.5	10.7	10.1	6.1	6.2	6.1	3.9	4.1	3.9	0.5	16.2				
3 番目に重要	1,650	6.7	9.0	6.4	8.7	8.6	8.7	8.4	6.4	7.5	4.3	4.9	0.1	20.4				
4 番目に重要	1,650	6.1	5.3	5.3	7.0	6.1	9.7	5.5	5.9	10.8	3.9	6.8	0.4	27.2				

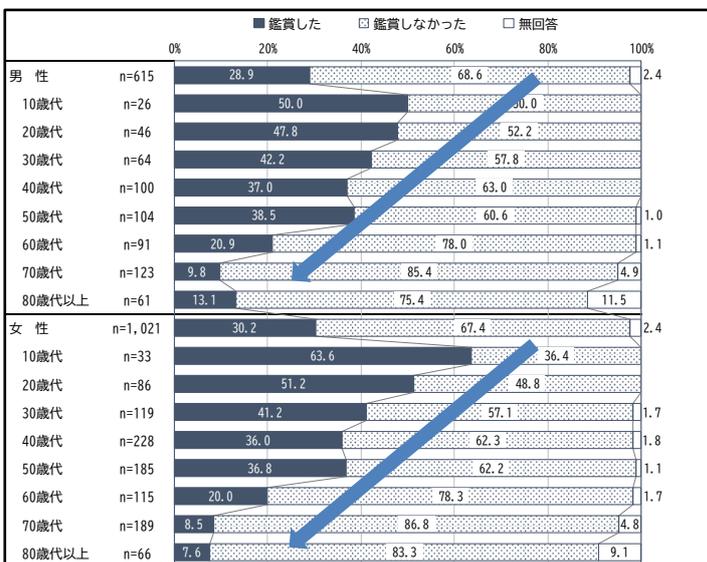
また、市が力を入れていくべき取組として、1 番目に「事業を充実すること」、2～4 番目に「子ども向けの事業を充実すること」を挙げる人が多い。

【課題・今後の方向性】

- 高年齢層の鑑賞機会が少なくなっている。
 - 事業を充実すること。特に、子ども向けの事業の充実が求められている。
 - 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」(平成 30 年 6 月)に沿った取組が必要。
- ➡文化財団等の事業について、より一層の充実を図る。

(2) オンラインでの文化芸術の鑑賞について

図表 18 鑑賞の状況 (オンライン)



【現状】

アンケート調査の結果からは、全体で約 30%の人がオンライン鑑賞をしており、10 歳代が最も高く、年代が上がるにつれて鑑賞した人が少なくなっていることが分かる。

図表 23 鑑賞しなかった理由（オンライン）

	有効回答数（件）	オンラインに関心がないから	オンライン鑑賞する環境がないから	時間や家事が忙しくて	オンライン鑑賞に関する情報が少ないから
男 性	422	38.4	35.5	23.7	15.9
10歳代	13	15.4	53.8	0.0	7.7
20歳代	24	33.3	54.2	4.2	20.8
30歳代	37	35.1	32.4	2.7	32.4
40歳代	63	41.3	39.7	11.1	25.4
50歳代	63	38.1	46.0	20.6	23.8
60歳代	71	50.7	29.6	25.4	15.5
70歳代	105	40.0	28.6	34.3	5.7
80歳代以上	46	23.9	28.3	52.2	6.5

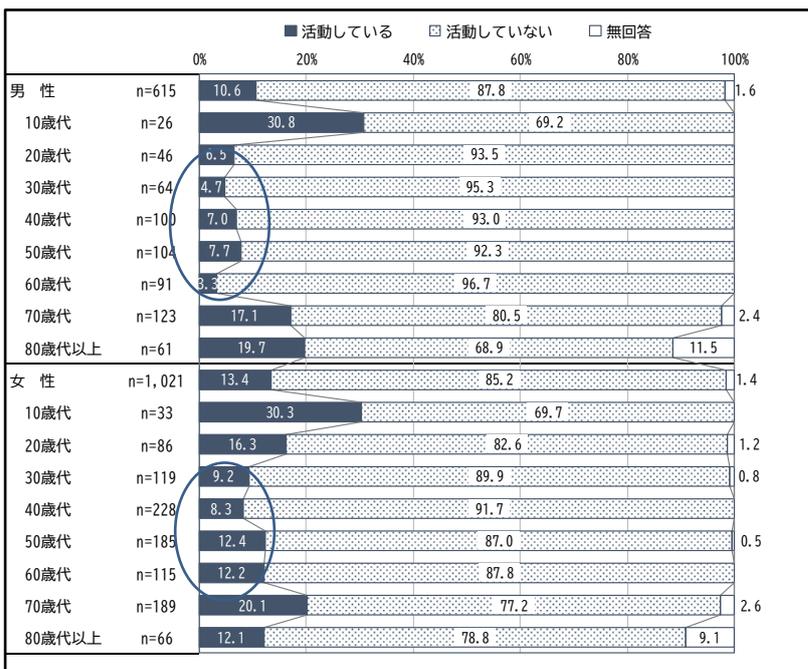
また、オンライン鑑賞をしなかった理由として、「オンラインで鑑賞する環境がないから」を挙げた人が、60歳代以上で多かった。

【課題・今後の方向性】

- 高齢になるほど、オンライン鑑賞の機会が少ない。
- ➡特に高齢者を対象にオンライン鑑賞を手助けする取組を進める。

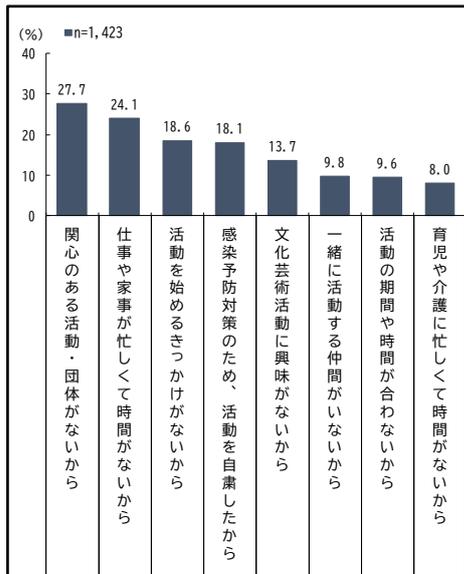
(3) 文化芸術活動を行っている人への支援について

図表 35 文化芸術活動の状況<性別・年代別>



【現状】

アンケート調査の結果からは、文化芸術活動を行っている人は、全体で12.3%と低く、平成28年度の14.5%からさらに低下している。年齢層別では20歳代～60歳代が低くなっている。



図表 45 活動していない理由 (抜粋)

また、文化芸術活動をしなかった理由として「関心のある活動・団体がないから」「仕事や家事が忙しくて時間がないから」「活動を始めきっかけがないから」との回答が多かった。

図表 46 活動していない理由<性別・年代別> (抜粋)

年代別にみると、男女とも 30～50 歳代では「仕事や家事が忙しくて時間がないから」や「育児や介護に忙しくて時間がないから」が多かった。

また、男性の 20 歳代と 60～70 歳代、女性の 60～70 歳代では「活動を始めきっかけがないから」が多かった。

その他、40 歳代以上の女性では「感染予防対策のため、活動を自粛したから」が多かった。

	有効回答数(件)	関心のある活動・団体がないから	仕事や家事が忙しくて時間がないから	活動を始めきっかけがないから	感染予防対策のため、活動を自粛したから	文化芸術活動に興味がないから	一緒に活動する仲間がないから	活動の期間や時間が合わないから	育児や介護に忙しくて時間がないから
男性	540	34.4	23.3	19.4	14.8	15.7	10.9	8.1	2.6
10歳代	18	44.4	5.6	11.1	16.7	5.6	11.1	0.0	
20歳代	43	39.5	18.6	23.3	4.7	14.0	14.0	11.6	4.7
30歳代	61	37.7	37.7	23.0	8.2	14.8	4.9	4.9	8.2
40歳代	93	32.3	32.3	19.4	12.9	15.1	7.5	10.8	3.2
50歳代	96	35.4	36.5	16.7	13.5	17.7	6.3	10.4	2.1
60歳代	83	35.2	21.5	20.5	18.2	14.8	12.5	5.7	1.1
70歳代	99	36.4	8.1	22.2	23.2	18.2	14.1	5.1	1.0
80歳代以上	42	16.7	4.8	11.9	16.7	11.9	26.2	9.5	0.0
女性	870	23.2	24.8	18.3	20.1	12.5	9.2	10.3	11.5
10歳代	23	43.5	13.0	30.4	0.0	13.0	8.7	13.0	0.0
20歳代	71	32.4	26.8	19.7	11.3	9.9	19.7	15.5	9.9
30歳代	107	27.1	29.0	18.7	7.5	14.0	4.7	5.6	34.6
40歳代	209	27.8	33.0	14.8	19.1	12.9	5.7	13.4	13.9
50歳代	161	23.0	31.1	20.5	24.8	13.7	5.6	11.8	4.3
60歳代	101	21.8	21.8	24.8	29.7	10.9	8.9	12.9	7.9
70歳代	146	11.6	11.0	16.4	29.5	13.0	15.1	5.5	6.8
80歳代以上	52	11.5	11.5	9.6	11.5	9.6	13.5	3.8	3.8

【課題・今後の方向性】

- 現在活動している団体の情報が知られていない。
 - ➡ 公民館等の社会教育施設で活動する団体のPRを推進する。
- 特に高齢者を対象に文化芸術活動のきっかけづくりが必要。
 - ➡ 社会教育施設での初心者向けの講座など、文化関係施設だけでなく、社会教育施設とも連携した文化芸術活動のきっかけづくりを進める。

2 施策2「次世代の文化活動を担う人材の育成」に関わる事項

図表 64 市が力を入れていくべき取組

	有効回答数(件)	SNSなどの情報発信を活用した新しい方法	広報春日井などを活用した情報発信を充実すること	事業を充実すること	子ども向けの事業を充実すること	現在ある施設を保全整備し、機器などを充実させること	市民の自主的な文化活動を支援すること	郷土芸能など地域の伝統的な文化の継承を支援すること	古墳や寺社など地域の文化財の保存・継承を行うこと	文化活動に関わる指導者を育成・派遣すること	新しい施設を整備すること	民間(企業・NPO等)による文化事業を支援すること	その他	無回答
1番重要	1,650	15.8	13.0	16.9	10.5	10.1	3.8	3.5	4.1	3.0	4.2	1.6	1.0	12.5
2番目に重要	1,650	12.4	12.2	7.6	10.7	10.1	6.1	6.2	6.1	3.9	4.1	3.9	0.5	16.2
3番目に重要	1,650	6.7	9.0	6.4	8.7	8.6	8.7	8.4	6.4	7.5	4.3	4.9	0.1	20.4
4番目に重要	1,650	6.1	5.3	5.3	7.0	6.1	9.7	5.5	5.9	10.8	3.9	6.8	0.4	27.2

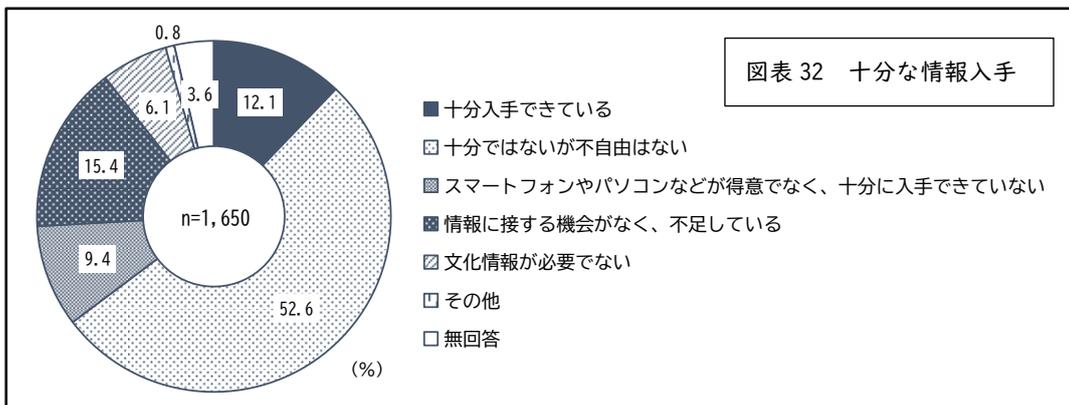
【現状】

アンケート調査の結果から、市が力を入れていくべき取組として、2～4番目に「子ども向けの事業を充実すること」を挙げる人が多い。また、市が力を入れていくべき取組として、「文化活動に関わる指導者を育成・派遣すること」を挙げる人が10～50歳代で比較的多い。アンケート自由意見で部活動への指導者派遣についての希望が寄せられている。

【課題・今後の方向性】

- 子ども向けの事業の充実が求められている。
 - ➡鑑賞事業、アウトリーチ事業などをより一層充実させる。
- 部活動への指導者派遣の希望がある。
 - ➡若手芸術家などを指導者として地域に派遣する取組みを検討する。

3 施策3「知りたい人に届く文化情報発信」に関わる事項



図表 65 市が力を入れていくべき取組<性別・年代別>

	有効回答数(件)	SNSなどの情報発信を活用した新しい方法	広報春日井などを活用した情報発信を充実すること	事業を充実すること	子ども向けの事業を充実すること	現在ある施設を保全整備し、機器などを充実させること
全体	1,650	1.20	1.12	1.08	0.98	0.94
男性	615	1.15	1.15	1.04	0.95	0.83
10歳代	26	1.92	0.27	1.15	0.88	1.27
20歳代	46	2.07	0.28	1.57	0.80	0.87
30歳代	64	1.97	0.59	1.19	1.36	0.67
40歳代	100	1.25	1.08	0.93	1.49	0.81
50歳代	104	1.45	0.91	1.28	0.92	0.79
60歳代	91	1.00	1.29	1.10	0.90	0.73
70歳代	123	0.52	1.89	0.65	0.57	0.86
80歳代以上	61	0.08	1.54	0.95	0.66	0.98
女性	1,021	1.23	1.11	1.12	1.00	1.01
10歳代	33	2.00	0.15	0.79	1.12	1.24
20歳代	86	2.12	0.45	1.34	1.22	1.19
30歳代	119	2.03	0.67	1.04	1.85	1.13
40歳代	229	1.71	0.93	1.26	1.53	0.93
50歳代	185	1.14	1.01	1.52	0.70	1.05
60歳代	115	0.83	1.60	1.10	0.55	1.19
70歳代	189	0.28	1.76	0.76	0.50	0.85
80歳代以上	66	0.20	1.35	0.59	0.45	0.76

【現状】

アンケート調査では、身の回りでの文化芸術に関する情報の入手について、50%以上が「十分ではないが不自由ではない」と回答している。一方、「スマートフォンやパソコンなどが得意でなく十分に入手できていない」「情報に接する機会が少なく、不足している」との回答も25%程度ある。

また、市が力を入れていくべき取組として、50歳代以下では、「SNSなどを活用した新しい方法の情報発信を充実すること」を最優先する回答が多く、60歳代以上では、「広報春日井などを活用した情報発信を充実すること」を最優先する回答が多かった。

【課題・今後の方向性】

- 対象者の年代に合わせた情報発信が求められている
 - ➡ 広報や民間地域情報誌などの紙媒体や、SNSなどを活用した新しい方法情報発信など、受け手に合わせた多様な情報発信を充実させる。
- ニーズの細分化があり、情報発信の一層の充実が求められている。
 - ➡ 社会情勢の分析、最新情報の収集を続け、文化芸術の情報に接する機会が少ない市民に対しても情報を届ける手法を検討する。

4 施策4「市民による文化活動の支援の推進」に関わる事項

図表 67 市に関わる事項の認知度（抜粋）

9. 文化ボランティア	n=1,650	2.4	25.9	69.0	2.7
-------------	---------	-----	------	------	-----

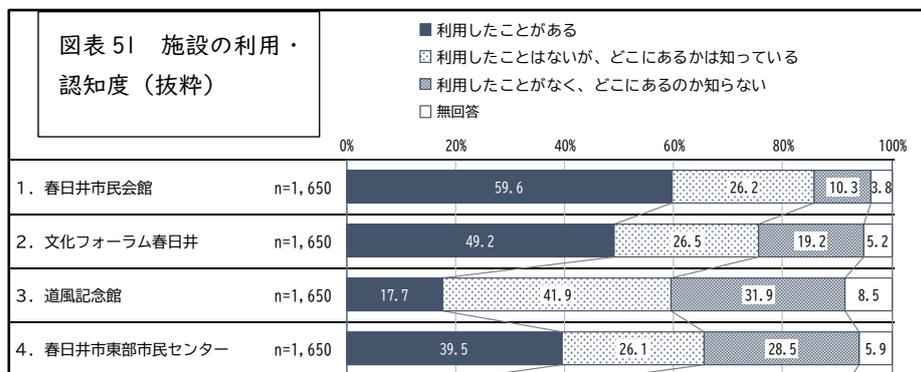
【現状】

春日井市独自の取組である「市民メセナ活動」に主眼を置いた施策であるが、アンケート調査では、文化ボランティアについて約70%が「知らない」と回答するなど認知度が低い。

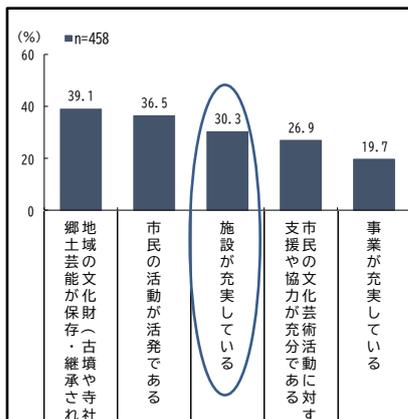
【課題・今後の方向性】

- 「市民メセナ活動」「文化ボランティア」に対する認知度の向上が必要。
- ➡市民が市民の文化活動を支援する「市民メセナ活動」は、今後も必要であり、活動が浸透するような取組を推進していく。

5 施策5「文化が育つ拠点施設の充実」に関わる事項



図表 60 文化芸術活動が盛んだと思う理由（抜粋）



【現状】

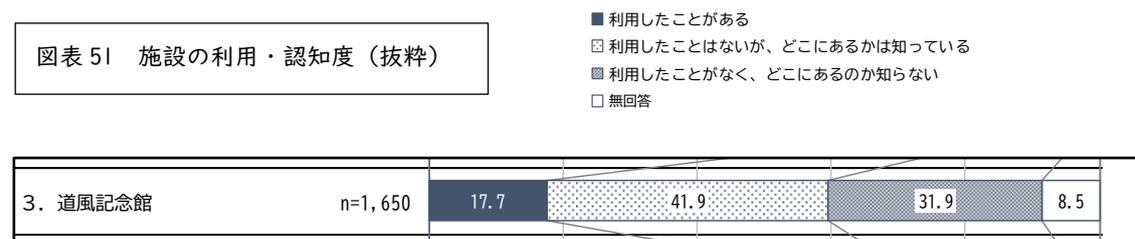
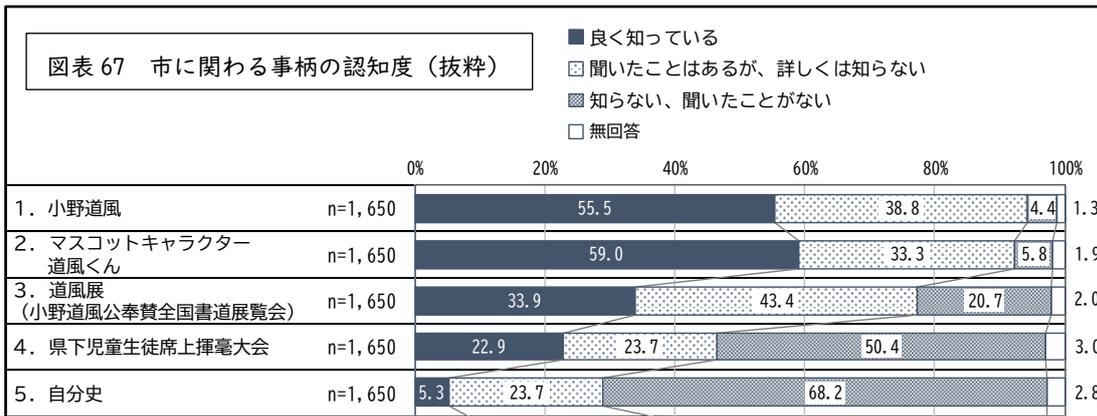
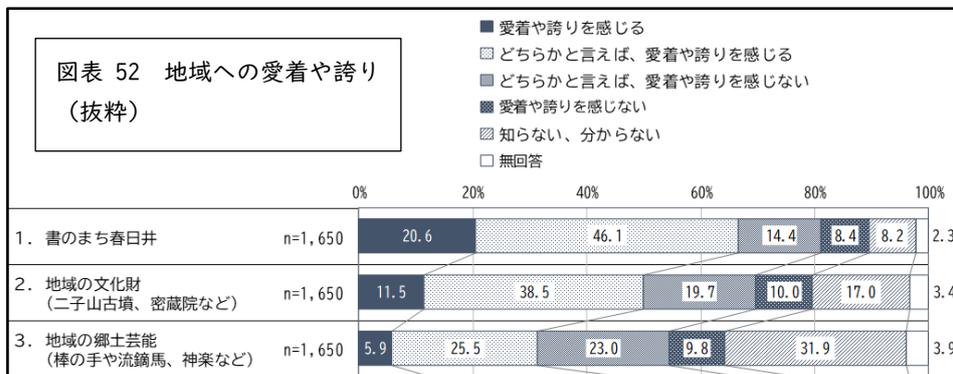
アンケート調査から、市民会館・文化フォーラム春日井の利用・認知度が高く、東部市民センターがやや低いことが分かる。また文化活動が盛んだと思う理由として約30%が「施設が充実している」と回答している。

一方、自由意見では、特に高齢者から、交通手段が限られているため、拠点施設までの移動が困難であるという意見が複数寄せられている。

【課題・今後の方向性】

- 現在の利用者には評価されているが、交通手段の制約などにより利用できていない市民がある。
 - ➡交通手段が限られる人にも、文化芸術活動に参加できる取組が必要。市域の中央だけでなく、東部地区にも文化芸術の拠点的な施設が必要。
- 開館から50年以上経過している市民会館が老朽化している。
 - ➡今後のあり方について、必要な機能・設備などを含め検討していく。

6 施策6「特色ある文化の推進」に関わる事項



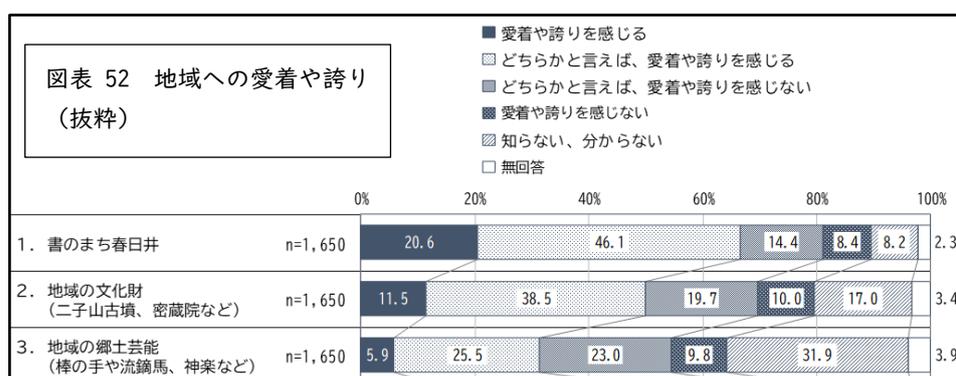
【現状】

アンケート調査から、「書のまち春日井」について、「愛着や誇りを感じる」人が66.7%に達しており、「小野道風」やマスコットキャラクター「道風くん」などの認知度は高いことが分かる。ただし、道風記念館の認知・利用数は低い。自由意見でも書のまち春日井に関する意見は多く、誰もが気軽に参加できる事業や、より身近に感じられるような取組を求める意見があった。自分史については、認知度が低い。

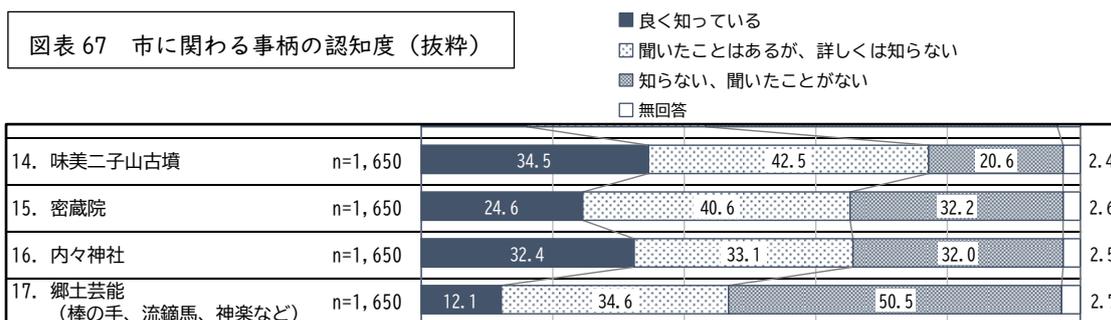
【課題・今後の方向性】

- 道風記念館の利用・認知度向上が必要。
 - ➡PR方法や、初心者への理解が深まるような企画を検討する。
- 誰もが参加できる、書を身近に感じられる取組が求められている。
 - ➡多くの市民が集まる機会を利用した企画を検討する。
- 自分史の認知度の向上が必要。
 - ➡他の分野との連携や、これから自分史に取り組む人の関心を呼ぶような企画を検討する。

7 施策7「文化財・伝統文化の保存・継承・活用」に関する事項



図表 67 市に関わる事柄の認知度 (抜粋)



【現状】

アンケート調査から、「地域の文化財」について、「愛着や誇りを感じる」人が50%に達しているが、「地域の郷土芸能」については、約32%が「知らない」としている。自由意見より郷土芸能については、地域によって意識が異なっている状況が推察できる。

【課題・今後の方向性】

- 地域の文化財や郷土芸能の認知度向上、後世への継承が必要。
 - ➡PR方法や、初心者理解が深まるような企画を検討する。
 - ➡地域と連携し、大切な文化財や郷土芸能を引き続き保存・継承・活用していくための取組を継続していく。

8 施策8「分野を超えた連携の推進」に関する事項

【現状】

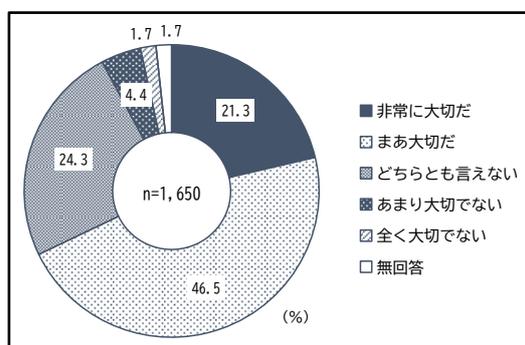
アンケート調査の自由意見では、「書のまちとサボテンの融合」、「昔ながらの『文化』『芸術』の認識にとらわれず、あまり知識のない人にも楽しめるような企画を考えてほしい」、「文化芸術の категория が狭く捉えられていると思う」、「文化フォーラムは良い会場なので、伝統産業催事や芸能など複合イベント発信ができると思う」「文化資源は、上手く活用することで市の活性化、ひいては人口増・観光訪問者増につながると考えます」などの声があった。

【課題・今後の方向性】

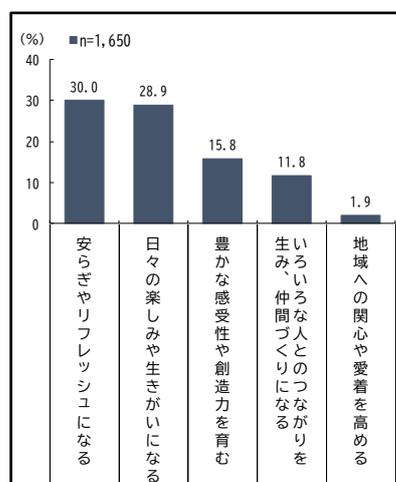
- 文化芸術を狭く捉える考え方が残っている。
- 「文化芸術基本法」(平成29年6月)に加えられた、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連施策との連携を図るという方針に沿った取組が必要。
 - ➡文化芸術を狭いカテゴリーで考えるのではなく、他分野の団体との連携を図る取組を推進する。

9 施策9「文化による地域の活性化」に関する事項

図表 47 文化芸術活動の大切さ



図表 49 文化芸術活動の効果



【現状】

アンケート調査では、文化芸術を鑑賞したり、自らその活動をすることで、「いろいろな人とのつながりを生み、仲間づくりになる」との回答が 11.8%あり、特に 70 歳代以上で多かった。また、「地域への関心や愛着を高める」との回答もあった。

【課題・今後の方向性】

- 文化が地域の活性化にはつながっていない。
 - ➡ 文化を媒介として、地域が活性化するような取組の支援を推進する。
 - ➡ 地域の文化財や郷土芸能などの保存活用を通して、地域のつながりが生まれる活動の支援を推進する。